

平成24年度第1回花巻新渡戸記念館運営協議会会議録

- 1 日 時：平成24年7月12日（木） 14：00～15：40
- 2 会 場：花巻新渡戸記念館事務室
- 3 出席者
委 員：内館勝人氏、小原幸子氏、木村清且氏、内匠睦子氏、中島健次氏、
松岡信氏、
市 市：まちづくり部長 菊池保守
記念館：館長 嶽間澤茂、副館長 熊谷賢良、学芸調査員 林秀
欠席委員：伊藤新一氏
- 4 担当者
進行 副館長 議長 会長 記録 学芸調査員
- 5 次 第
 - 1 開 会
 - 2 あいさつ
 - 3 会長選出
 - 4 協 議
 - (1) 協議事項1 平成23年度事業及び利用状況等の報告
 - (2) 協議事項2 平成24年度事業等計画について
 - 5 閉 会
- 6 会議の概要

○委嘱状交付

○会議成立の報告（熊谷副館長）

本日、伊藤協議会委員が欠席ですが過半数の出席を頂きましたので、花巻新渡戸記念館管理運営規則第7条第2項に基づき、会議は成立します。

1 開会（嶽間澤館長）

本日はお忙しい所お集りいただきありがとうございます。この2月から前佐藤茂館長に変わりましたお世話になっております嶽間澤と申します。

4月からのいわてデスティネーションキャンペーン（いわてDC）や平泉の世界遺産登録の影響でしょうか、また宮沢賢治さんの魅力が見直されまして、この4～6月の入館者数が5,650人になりました。これは過去7年間の平均よりも約900人多い数字でございます。昨年は震災の影響でかなり落ち込みましたけれども、一昨年の同時期よりも約1,000人も多くなりました。県外からの入館者が多く、中でも九州始め関西方面と、全国各地からたくさんの方に入館していただいているという状況でございます。新渡戸稲造さんにつきましても、先日NHKのEテレのほうで「内村鑑三と新渡戸稲造」という2時間番組が放映されました。生誕150年にあたりこのような関係で出版物ですとか新渡戸稲造さんに注目が集ってきています。今年度から3名の新しい審議委員をお願いいたしました。新しい意見など取り入れて運営の参考にしたいと思っておりますので、よろしくお願

します。それでは平成24年度第1回花巻新渡戸記念館運営協議会を開会いたします。

2 あいさつ（菊池部長）

一言述べさせていただきます。先ほど、嶽間澤館長からお話しいただいた通りでございます。6名の委員のみなさま方には、ご多用のなかこのようにご出席いただき、また運営委員をご承引いただきまして誠にありがとうございます。辞令につきましては、教育委員会の権限に属するものですが、事務についてはまちづくり部長、記念館職員に教育委員会から補助執行という形で任されております。したがって、発令に係る権限は教育委員会にありますので、辞令については教育委員会からとなっております。よろしくご承知のほどいただきまして、館の運営に特段のご指導をよろしくお願い申し上げます、あいさつに変えさせていただきます。

○職員紹介（嶽間澤館長）

○各委員自己紹介

- ・名簿順に各委員が自己紹介（所属団体と氏名等）を行う。

○会長選出（菊池部長が仮の議長で進行）

①会長の推薦を委員に囂る。（運営規則第6条1項）

②（小原委員）木村清且委員を推薦

（委員全員承認）

③会長の指名により会長職務代理者を中島健次委員とする。（運営規則第6条3項）

（委員全員承認）

④「花巻新渡戸記念館運営協議会」会長及び会長職務代理者は次のとおり。

- ・会 長 木村清且 委員
- ・会長職務代理者 中島健次 委員

3 協議（進行：会長）

（会長）協議事項の1を説明願います。

（1）協議事項1 平成23年度事業及び利用状況等の報告

「事業報告」「利用状況の報告」等について、委員に配布した資料に基づき熊谷副館長が説明を行う。（資料：1ページから10ページ参照）

（会長） 資料に基づいて、利用状況と展示、アンケート等について説明していただきましたが、質問や聞きたいことはありますか。

（会長） 随分と利用者が増えているようだが、宮沢賢治記念館や平泉の影響はあるだろうか。

（部長） 宮沢賢治記念館の利用者も4～6月増えている。昨年から増え続けているが、どうやら例年福島へ修学旅行に行っていた学校が岩手県に流れてきているようだ。

（小原） いわてデスティネーションキャンペーン（いわてDC）の影響はどうか。

（館長） あると思います。震災復興の機運の影響もあるだろう。

（松岡） 開館以来、「入館者数における市民の割合」が17%に留まっているが、この問題を解決しなければいけないのではないかと。

(館長) 地域の方々の誘致については様々な意見を頂きながら取り組んでいる。そのひとつとして、開館記念日や5月の連休の時に地元の神楽、幼稚園の子ども達の出し物をここで行っている。そういう活動を通してこの記念館を周知している。加えてこちらから小学校、中学校に出向いて行って出前授業のPRをしている。出来る限り地元の人たちの集りやすい内容の企画を考えている。花巻の人口比と県外の人口比が違うので、17%という数字が多いか少ないかは悩むところではあるが、大体同じ割合で数年間推移している現状だ。

(会長) 協議事項の2を説明願います。

(2) 協議事項2 平成24年度事業等計画について

「事業運営方針」「事業計画の概要」等について、委員に配布した資料に基づき熊谷副館長が説明を行う。(資料：11ページから15ページ参照)

(会長) このスケジュールはどのように周知するのか。

(館長) 広報に掲載する。

(副館長) 事業を実施の都度、その事業実施前に広報に掲載する他、記者クラブを通じて取材協力もお願いしている。

(松岡) 特別展のタイトルで、「猫塚家」と言われてもわからないし誰も知らない、関心がない。「新渡戸家に協力した」などとわかりやすくタイトルを工夫してはどうか。

(副館長) 意見を参考にしながら、次年度に活かしたい。

(松岡) 第一印象は大事だと思うので、是非検討されたい。

(小原) お茶会につられて、普段は来ないような客層の女性の方が来られる話は聞いている。

(松岡) チラシでの広告のみでなく、シャトルバスを出すなど宣伝の方法を考えてはどうか。

区長や老人クラブの会長に協力を依頼するなど、手順にも工夫が欲しい。ただ案内だけされても興味はひかれなない。金を出す気にならないと思う。

(館長) 花巻市民の入館者を増やし、興味関心を持ってもらうために、花巻市民に限っては入館料免除というのはいかがか。

(部長) 料金だけの問題ではない。小中学生についてはふるさとパスポートを利用すれば無料になる措置を既にとっている。来年度はまなびキャンパスカードに改めて、対象を大学生まで拡充する案もある。

(内館) 予算について、トイレの便座に熱線が入っていないために使いにくい。改善していただきたい。

もう一点、展示の中に難解な漢字が多いのでふりがなをふって欲しい。

(館長) そのように努めます。

(内匠) 委員に、佐藤全弘先生や深沢さんなどを招くのはどうだろうか。

(部長) まちづくり部、教育委員会の管轄なので地元の人をお願いしています。

(中島) 教育施設であり観光施設ではないので、入館者などの数値は参考までという理解をした。十和田記念館、先人記念館との連携はないのか。

(館長) 昨年度、今年度の具体的な三館での連携はございません。

(議長) 貴重な意見をたくさんありがとうございました。以上で協議会を終了します。

4 閉会 (嶽間澤館長)

長い時間にわたって貴重なご意見ありがとうございました。新渡戸稲造さんの第2次ブ

ームが始まったのではないかな、と思っております。五千円札が発行された時が1次ブームだとすれば、NHKの番組で取り上げられたり、今年は生誕150周年という事で関心が高まってきております。そのなかで、当記念館としてどう花巻市民のみなさんあるいは県内外の新渡戸ファンのみなさんにアピールしていくか、本日いただいた意見を参考に館の運営を進めていきたいと思っております。

これで、平成24年度第1回花巻新渡戸記念館運営協議会を終わります。